



フランス

紙レシート類の原則廃止で不都合も

- 「6000万人の消費者」ウェブサイト <https://www.60millions-mag.com/2022/11/16/le-ticket-de-caisse-va-disparaitre-pas-vos-droits-20773>
- QUE CHOISIR ウェブサイト <https://www.quechoisir.org/actualite-tickets-de-caisse-leur-delivrance-n-est-plus-automatique-n109486/>
- フランス政府公式サイト <https://www.service-public.fr/particuliers/actualites/A16120>

フランスでは2023年8月1日より、紙レシートの発行が原則廃止された。印字されたレシートが欲しい消費者は、売主に対して「レシートが欲しい」と要求する必要がある。また売主側も、消費者の求めがあったときに限り紙レシートを発行する旨を、レジ等に明示しなければならない。対象は、スーパー等の店舗で発行されるレシートのほか、カード決済時のレシート、販促チケットや割引券など幅広い。

この措置は、廃棄物の削減等を目的とする循環経済法に基づく。同国では年間125億枚の紙レシートが発行され(今回対象となる割引券等を含めると300億枚)、その多くがゴミ箱行きとなる現状があった。また、レシート用感熱紙には、ビスフェノールA等の内分泌かく乱物質を含むことも問題視されていた。そこで、廃棄物削減のほか、紙レシートに触る人々

の健康を守るという意味もある。

一方、例外規定も設けられている。家電製品、パソコン、電話機など保証期間の記載があるレシート、野菜・果物の量り売りで印字される紙片、映画館入場券のようにサービスを受ける際に提示が必要なチケット等は、従来どおり提供される。

しかし、消費者が紙レシートの要求を忘れた場合、金額の間違いを後から指摘できなくなることから、消費者団体は紙レシート類の原則廃止を疑問視する。事業者によってはレシートを電子化しており、電子メールや二次元コードで金額の確認が可能だが、個人情報登録が前提となるため抵抗を感じる消費者もいる。さらに、紙レシートの有無によって万引き犯かどうか判断できないため、警備員の業務が困難になったという声もある。

オーストリア

猫より緩い？ 子どもの転落事故対策

- KfVウェブサイト <https://www.kfv.at/warnung-vor-steigender-fenstersturz-gefahr-bei-kindern-im-fruehling/#:~:text=Angesichts%20steigender%20Au%C3%9Fentemperaturen%20erinnert%20der,Insektengitter%20anlehnen%20und%20mittels%20Fenstericherungen>
- 連邦社会・保健・介護・消費者保護省ウェブサイト <https://www.sozialministerium.at/Services/Neuigkeiten-und-Termine/Archiv-2023/Mai-2023/fenstersturz-vermeiden.html>

オーストリアの家庭で最も飼育されている動物は猫であり、その数は犬の2.5倍を超えるという。ところが、猫の飼い主を悩ませているのが、窓やバルコニーからの転落である。重傷を負うことが多いとして、動物保護団体等が注意を呼びかけている。このような背景から、外に転落する危険のある部屋で猫を飼う人には、猫の転落防止に有効な安全装置を付ける義務が課されている*。

窓から転落するのは猫だけではない。KfV(オーストリア交通安全機関)によると、2010年から2022年の13年間に、窓から転落して負傷した15歳未満の子どもは139人だった。死亡者は17人で、そのうち8割近くを占めるのが、5歳未満の幼児である。転落事故は、窓の開閉が少ない冬場に減り、春と夏

に増える傾向があるのだという。また、虫よけ用の網戸に関連する事故が目立つのも特徴だという。網戸に寄りかかると簡単に網が破れることから、注意が必要であると警告する。

また、子どもが住む住戸に転落する危険のある窓等がある場合でも、転落防止用の安全装置を付ける法的義務はない。猫の場合と比べアンバランスだと同機関は首をかしげる。補助金の導入など、安全装置の設置を促進するための方策が望まれるとする。

さらに、窓からの転落事故を防ぐためには、たとえ短時間であっても、小さな子どもを部屋に残してはならないと警告する。例えば、来客が玄関のベルを鳴らしたときも、隣の部屋で電話が鳴ったときも、子どもと一緒に連れて行くよう勧める。

* オーストリア政府ポータルサイト https://www.oesterreich.gv.at/themen/freizeit_und_strassenverkehr/haustiere/2/Seite.740291.html